

令和4年8月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和4年8月24日（水）13時～14時

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関> 読売新聞、山形新聞、河北新報、毎日新聞、NHK、SAY、YTS、
YBC

<市> 市長、秘書広報課長

4 記者倶楽部からの質問事項

(1) 新型コロナウイルスの感染が拡大している現在の状況への受け止め、
および米沢市としての今後の対応等について、

- ①病院機能の現状、
 - ②今後のワクチン接種計画、
 - ③市民への呼びかけ等、
- 市としての見解、方針をお聞かせください。

(2) 先日の大雨により置賜地域は甚大な被害を受けました。

米沢市においても国道121号が通行止めとなるなど被害が出ていますが、

- ①被害状況についての受け止め、
- ②観光への影響
- ③農業等への影響、
- ④今後の災害対応に関する考えなどをお聞かせください。

(3) 先日、JR東日本が地方路線の収支の状況について公開し、

米坂線が「赤字路線」であることが公表されました。

これに関しての米沢市としての受け止めをお聞かせください。

また、先日の大雨により今泉駅以西の再開のめどが立たない状況を踏まえ、
沿線自治体との連携を含めた今後の対応についてお聞かせください。

(4) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和4年度8月の定例記者会見を開催いたします。本日の記者会見では、

初めに記者クラブからいただいた事前の質問に回答させていただき、質疑に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長

今回のご質問は3点ありました。まず1点目は、「新型コロナウイルスの感染が拡大している現在の状況への受け止め、および米沢市としての今後の対応等について、①病院機能の現状、②今後のワクチン接種計画、③市民への呼びかけ等、市としての見解、方針をお聞かせください。」という内容です。

まず全体を通して、本市の感染者が毎日のように100人を超えているということで非常に危機感を持っています。規制のない状況の中で感染が拡大したと思います。経済や社会活動がようやく回復に向かっている状況がまた縮小してしまうこと、それぞれの職場で感染者が多く出ると、その職場の機能が成り立っていかないこと、そういった点から非常に危機感を持っています。色々な要因があると思いますが、オミクロン株は感染力が強いという一方で、重症化しにくいという面もあります。ちょうど猛暑の時期と重なり換気ができにくかったという状況により、空気感染（エアロゾル感染）が多かったのではないかと思います。またお盆などで人の移動が多い時期でもあり、それも感染者が増えた要因なのではないかと思います。いずれにせよ、経済、社会活動、市民の皆さんの日常生活を一日も早く取り戻さなければなりません。それぞれの事業所等に改めて感染対策を徹底していただき、市民の皆さんにも呼びかけをしながら感染対策を進めています。

市立病院について、感染拡大が始まって以来、発熱外来や救急室におけるコロナ陽性者への対応件数は増加しています。保健所からの陽性者診察依頼が一日1件から4件程度きているようです。コロナ陽性の疑いについては、救急搬送された患者のうち、大体7割強が陽性者という状況です。発熱外来受診者は一日平均7名程度で、受診者のうち約半数が陽性者という状況です。コロナ関連の電話も増加しており、患者支援センターには一日20件から30件の問い合わせがあり、救急室の電話が繋がりにくくなっているようです。現在市立病院でもコロナ感染、濃厚接触者ということで出勤できない職員が15名程度います。診療に支障をきたさないようにしなければならないという思いがありますが、影響はあるものの病院全体の入院患者数が少ないため、通常通りの診療体制がとれている現状です。コロナの入院患者は現在6名で、病床使用率は75%です。（※修正1）→別紙

ワクチンについては、だんだん接種率が低下しています。2回目の接種率が85.1%、3回目の接種率が67%です。4回目の接種率は、60歳以上の方や基礎疾患をお持ちの方など、対象者が異なり一概に比較はできませんが間違いなく低い状況です。国の方向性として、オミクロン株に対応するワクチン接種も計画されているようです。副反応の少ないノババックス製のワクチンも現在個別接種が行われています。ワクチン接種を受けて、感染しても重症化しないようお願いをしているところです。また小児接種について、国の方針として9月にも努力義務を適用するという見通しなので、接種日程を追加して希望する方に接種していただけるように

体制を整えていきます。現在国から自治体に対し、従来株とオミクロン株に対応した2価ワクチンの10月半ば以降の接種実施に向けて体制を確保するようにという通知もきていますので、国の方針に基づき準備をしていきます。感染拡大が収まらない状況ですが、一人ひとりがさらに意識の高い感染対策に取り組んでいただけるようお願いをしていきます。

感染者が増えていますが、どこで感染したかわからないという状況が多く聞かれます。自宅療養者が増えている中で、感染された方は買い物もすることができません。県の自宅療養者に対する生活支援事業として、食料品等のセットを配布しています。本市でも8月15日から自宅療養者の生活支援事業に取り組んでおり、梱包された食料品等1セット8,000円相当のものを提供しています。療養期間中は1世帯1セット1回限りです。また衛生用品は希望する世帯に必要な人数分を1回限り提供しています。受付期間は、8月15日(月)から9月30日(金)までの午前9時から午後9時までです。現在119件程申込みがきている状況です。(※修正2)→別紙

2点目は、「先日の大雨により置賜地域は甚大な被害を受けました。米沢市においても国道121号が通行止めとなるなど被害が出ていますが、①被害状況についての受け止め、②観光への影響、③農業等への影響、④今後の災害対応に関する考えなどをお聞かせください。」という内容です。

今回の大雨の前に6月末にも大雨の被害がありました。8月3日の大雨は追い打ちをかけるような被害が出てきました。置賜全体でも大きな被害が出てきています。何よりも一日も早い原状復帰をお願いしなければなりません。被災が大きかった飯豊町や小国町、あるいは大江町、米沢市として県知事と一緒に飯豊町において斉藤国土交通大臣に要請したこともありました。8月10日の置賜総合開発協議会の中で、陳情を予定していました。しっかりと国に被害状況を報告して、一日も早い復旧について国土交通省を中心にお願いをしてきました。また、農業被害においても、特に被害のひどかった川西町、飯豊町の町長から実状について報告を受け、その支援策についても話をして要請をしてきました。本市でも道路の欠損、通行止め、農業被害、また観光面においても厳しい状況に追い込まれたという災害でもありました。被害を受けられた皆さんには心からお見舞いを申し上げます。

国道121号線が6月の豪雨、また8月3日の豪雨において、より厳しい通行止めの状況になってしまいました。このことについて、県、国に緊急的にお願いをしてTEC-FORCEの中で国の調査も入っていただきました。今後どのように対応していくかについては、現在、県、国に調査を行っていただいているところです。農業施設、林道、農道等の被害もですが、先日、激甚災害指定ということになりました。それも踏まえて、土地所有者を含めた被害を受けた皆さんの負担が少なく、また我々自治体の負担も極力少なくして、多くの被災した皆さんに支援をしていけるような対応をしなければなりません。また121号線には道の駅田沢がありますが、売上げの大幅な落ち込みによって経営に大きな打撃があると聞いています。

観光面では、秘湯である大平温泉、新高湯温泉が6月に続いて今回も被害を受けま

したが、市民の皆さんがボランティアでお手伝いをしていただいているようです。しかしながら営業再開ができないということで、経営的にも苦しい状況だと認識しています。

農業等については、収穫直前だったハウレンソウや枝豆に土砂が付着し出荷できなかつたり、播種直後だったソバの種子が流されてしまったほ場もあったようです。全体被害額は現状はつきりしていませんが、収入減少等により相当な影響が出てくると思います。ハウレンソウや枝豆関係では、600万円ぐらいの影響が出るのではないかという話も聞いています。これらはしっかりと調査しないとわからない数字ですし、水田に関しては土砂が流入している箇所もあるので、秋の刈り入れを試みないとどれぐらい減収になるかがわかりません。被害額の算定はこれからの状況を見て判断しなければなりません。また農業用水、農業施設にもだいぶ影響が出ており、現地調査を行った結果、被害箇所は170箇所以上になっています。農家の皆さんの営農意欲が落ち込むことが懸念されますので、今後の状況に合わせながらしっかりと支援のあり方を検討していきます。

現在121号線は、ボーリング調査をして今後どのようにしていくか、原状復帰なのか道路の付け替え等も含めて国で調査をしていただいているところです。一日も早い復旧を願っています。このような現状を見て、市民の皆さんにはこのようなことが本市でも起きるのだということを改めて認識し、自主防災組織の結成、食料品等の備蓄や避難場所の確認など災害への備えを最低限していただき、被災した場合にも対応できるように強くお願いをしていきます。何よりも命を守るために自助、共助、公助について学んで取り組んでいきます。

3点目は、「先日、JR東日本が地方路線の収支の状況について公開し、米坂線が赤字路線であることが公表されました。これに関しての米沢市としての受け止めをお聞かせください。また、先日の大雨により今泉駅以西の再開のめどが立たない状況を踏まえ、沿線自治体との連携を含めた今後の対応についてお聞かせください。」という内容です。

7月28日にJR東日本が公表した情報等を見て、米坂線が厳しい状況にあることは認識しています。以前から、赤字路線という米坂線の状況は認識していました。今回このように公表されたということは、当面このことにより廃止路線になることはないというJR側では話しをしていますが、しかし大雨の被害もあり、今後どのような対応になっていくかは全くわからない状況です。現在、鉄橋崩落や線路への土砂流出等により不通となっている区間において、一日も早く原状復帰をして列車を通していただき、日常の米坂線の運行を行ってほしいです。現在米沢・今泉間が通常通り運行されていますが、そこから先の問題があるため一日も早い復旧を願っています。8月10日の国への陳情の際に、原状について国交省に早急な復旧をお願いしています。また小国町、飯豊町がJR新潟支社に訪問し、早急な復旧をお願いしています。米坂線は今泉を中心にして米沢から今泉までが仙台支社、今泉から坂町までが新潟支社と分かれておりますが、そのような垣根を越えて、一日も早い復旧

工事への着手を3市5町一丸となって対応していきます。お互いに連携をとりながらJR側に要請をしなければなりませんので、米沢市としても置賜の中心地としてしっかりと取り組んでいきます。

○記者

病院機能について、なんとか苦しいながらもやっていけると発言されていましたが、7月に一時救急外来の停止、新規外来の停止があったと認識していますが、その点についてどうお考えですか。

○市長

その時は看護師、医師のコロナ感染が増えてしまい受け入れが難しかったということがありました。なんとながっているという言葉を使ったのは、コロナの病床使用率は75%になっていますが、全体の入院者が少ないために、病院の維持機能はなんとかされているという意味での発言でした。(※修正3) →別紙

○記者

このような事態になったのはコロナ3年目で初めてだと思うのですが、米沢市の医療機関のひっ迫という点では今までにない状況だと思うのですが、その認識はいかがでしょうか。

○市長

病院として対応はできていますが、これ以上感染者が増えることによって、色々な事業所等が機能できなくなることが一番困る状況です。そのようなことのないように注意喚起をするしかないと思います。

○記者

コロナについて、国も間もなく全数把握の見直しの表明があると思いますが、全数把握をやめると米沢市の毎日の感染者数は出てこなくなります。市長はどのようなお考えでしょうか。

○市長

まだはっきりと決まっていけないので、全国一律に全数把握をやめるというわけではなく、自治体に任せるという話になっているようです。それは、米沢市のことは米沢市に任せてくれるという意味なのか、今まで通り県がまとめてそれから県と自治体35市町村の対応になっていくか今の段階ではわかりません。現在2類から5類への引き下げという話も出ておまして、ワクチン接種等にもどのように影響が出てくるか心配される部分もありますので、はっきりとした状況が出てこないと明確にお答えするのは難しいと思います。いずれ決まった段階で改めてお伝えします。

○記者

大雨被害について、自主防災組織の活動はいかがでしたか。

○市長

本市の自主防災組織の結成率は高くありません。警報も出た土砂災害区域の3地区から避難された方もいました。そのほとんどが河川の氾濫による避難で、特に窪田地区の状況がひどかったようです。聞くところでは、自主判断で対応されたという部分

が多かったと思います。被害が大きかった地域に比べると米沢市は少なかった方だと思えますが、雨があがった後の災害ごみの処理なども地区ごとに対応していただきました。自主防災組織が機能した地区もありますし、今回はそれまでに至らなかった地区もあったと思います。

○記者

国、県への要望、陳情についてはまだまだこれからという状況は理解しましたが、米沢市として今できること、具体的な被災者への支援はどのようなことを検討していますか。

○市長

今回の大雨は、激甚災害に指定をされました。そのことにより、いずれ被害調査を行いながら支援の対応もしていただけたと思います。しかし、田んぼに水が入らないとお米が育たない等、すぐに対応が必要な方もいると思います。土砂災害等の撤去などについては、まずは米沢市単独で現在取り組みを進めているところです。

○記者

被害額等はこれから見えてくるということでしたが、見込みとして年内には見えてきそうですか。

○市長

激甚災害に指定をされ、そこははっきりしなければ国に申請もできないのでしっかりと対応していきます。現在、被害額がいくらかというところまでは至っていません。

○記者

121号線について、道の駅田沢など観光関連で直撃しているところもあり、今後長引けば影響も出てくると思います。また物流面で、迂回することによりガソリン代が増えていたり、高速代がかかるという声も聞こえてきているが、その支援策はどのように考えていますか。

○市長

物流については、どういうものが該当するか、どのぐらいが県外ナンバーなのかなど色々あると思いますが、道の駅田沢が大変な状況だということは理解しています。道の駅田沢名物のそばを我々職員に購入してほしいという要請もきておりますので、そういった支援もしていきます。ちょうど道の駅田沢の前で通行止めになっており、その影響もあると思いますので、道の駅田沢までは行くことができるという表示の方法も考えていきます。喜多方から米沢に来る方、米沢から喜多方、会津方面に行く方、その中間に道の駅田沢があります。道の駅田沢をぜひご利用くださいと言ってどのような影響があるかはわかりませんが、少しでも不安になる材料を取り除いて、売り上げに協力できるように取り組んでいきます。

○記者

米沢市にとっての121号線の大切さはどのようなところでしょうか。

○市長

会津圏域との物流、観光、また日常生活で大切な道路です。会津、喜多方方面から

米沢の高校に通っている生徒が大体20人程いますので、生活道路としての位置付けもあると思います。それが現在途絶えており、燃油高騰の時期に遠回りをしなければならぬという声も出ていますので、大切な内陸を縦貫する道路としてこれからも重要な道路であると認識しています。今回の通行止めになった2箇所を見ていますと、構造上の問題、土質の問題もあると思います。どのような大雨がきても災害が起きない道路に造り変えていただくということが重要だと考えています。ある程度時間がかかっても仕方ないという部分はありますが、一日も早く調査結果をもとに復旧することを願っています。それだけ重要な道路であるという認識です。

○記者

米坂線について、米沢市における米坂線の役割はどのようなところでしょうか。

○市長

1点目は、米沢市あるいは他の地域の高校に通う子どもたちの、通学する大きな交通手段であるという位置づけがあります。2点目は、米坂線を利用して職場に通勤されている方もいます。3点目は、観光を目的とする役割もあると思います。この3点の利用が中心だと思えますが、これらに影響が出てくるということは、米沢だけでなく沿線自治体の地域の経済も含め、日常の生活にも困難をきたすものだと思います。そのようなことから非常に重要かつ生活に根差した路線であると理解しています。

○記者

通学、通勤、観光の中で一番役割を果たしているものはなんだと思いますか。

○市長

あくまで私の考えですが、やはり通学だと思います。通勤されている方だと車の運転もできます。観光においても、鉄道だからいいという部分もあると思いますが、車で訪れることもできます。それぞれの通学生は車を運転して学校に行くというわけにはいかないのです、高校生の通学が一番困難をきたしているのかなと思います。

○記者

赤字路線という発表があり、ただちに廃線にはならないだろうという話がありましたが、通学で利用する子供たちも減少していくなかで、赤字解消の手立ては何ができると思いますか。また存続を願うのはもちろん、どうすれば存続できると思いますか。

○市長

やはり利用者が増えていかないと、どうにもならないという部分があります。米坂線の機能として3点を申し上げましたが、その他に、利用する住民の方々をどのように拡大していけるかということも重要です。行政として取り組みやすいのは、観光面での取り組みです。例えば、置賜観光協議会においては、米坂線を利用して酒田方面、庄内との交流も年に一度行っておりますので、赤芝峡の紅葉などをPRして廃線にならないように利用してくださいとお願いをして、それぞれの沿線自治体で特色を持って人を呼ぶようなことを、置賜全体で考えていかなければならないと思います。新潟南部高規格道路ができれば、より車での移動が便利になってくるかもしれませんので、本当に鉄道を残したいのであれば沿線自治体と連携をとりながら、利用客の拡大に向

けて取り組んでいかなければならないと思います。

○記者

市として、利用実数は把握していますか。例えば南米沢駅や西米沢駅で何人ぐらい乗降しているかなどの情報は入っていますか。

○市長

把握していると思いますが、手元にはありません。

○記者

そこまで把握して赤字問題に取り組むものだと思うのですが、認識としていかがでしょうか。

○市長

どこの駅を利用してどこの高校に通学しているのか、またどこの会社に通勤しているのかという根拠となるデータをしっかり把握していないと説明にも力が入らないと思いますので、今後しっかりと調査していきます。

○記者

全国的に話題になっている旧統一教会との関連で、これまでイベントに参加したり、選挙で支援を受けたりなど関わりはありますか。

○市長

旧統一教会が米沢にあるかもわかりませんし、言葉として聞いたことはありますが、身に覚えはありません。

○秘書広報課長

これを持ちまして令和4年度8月の定例記者会見を終了いたします。

記者会見の内容において一部誤りがございましたので修正いたします。大変申し訳ございませんでした。

※修正1

入院患者数および病床使用率

誤) 6名、75%

正) 7名、41.2%

※修正2

受付期間・時間

誤) 8月15日(月)から9月30日(金)までの午前9時から午後9時

正) 8月15日(月)から9月30日(金)までの午前9時から午後5時

申込件数

誤) 119件(8月23日(火)午後5時現在)

正) 233件(8月23日(火)午後5時現在)

※修正3

病床使用率

誤) 75%

正) 41.2%